

これまでの「つばさ」のあゆみ

青少年指導員制度50周年を記念し、過去に発行された「つばさ」を通して、青少年指導員のあゆみを振り返ります。

第1号（平成元年12月）

平成元年に発行された第1号。

「つばさ」という名称はまだつけられていません。様式も今と大きく異なっています。長洲県知事(当時)の出席を得て、多くの方々の協力のもと、盛大に開催された青少年指導員大会にかかわる記事が一面に掲載されています。そうした記事から、当時の指導員の方々の青少年に対する熱意のほどがうかがえます。



第22号（平成12年3月）



青少年指導員大会が現行の形式で開催されるようになった年度に発行されたもの。各市町村の公共施設を利用して開催できるように、1,000名規模で丸一日かけて行われていた従来の形式から、300～500名規模で半日間でやる現在の形式に変更になりました。

第25号（平成13年9月）

21世紀に入って最初に発行された第25号。

各地域の指導員の方々による座談会形式の記事になっています。学校の完全週休2日制への移行や、ITを利用した子どもの居場所づくりなど、青少年を取り巻く環境も大きく変化し、新世紀へ向かうに伴い青少年育成についても新たな課題が生じ、それに対応していこうといった心意気が読み取れます。



第37号（平成19年9月）



第37号が発行された平成19年には、青少年喫煙・飲酒防止条例が施行されました。記事に掲載されているスイングPOPやポスターは、毎年度作成し、今年度も各店頭で掲示されています。指導員の皆様方には、日頃から青少年の喫煙・飲酒を防止する環境づくりに御協力いただき、ありがとうございます。

第50号（平成26年3月）

第50号は記念号としてカラー印刷で、ページ数も通常の8ページから12ページに増やして、盛り沢山の記事を掲載しました。

第45号から従来のA3版からA4版にリニューアルし、第47号からは県のホームページにカラーで掲載されるようになりましたので、きれいな画質でどなたでも御覧いただけます。

